

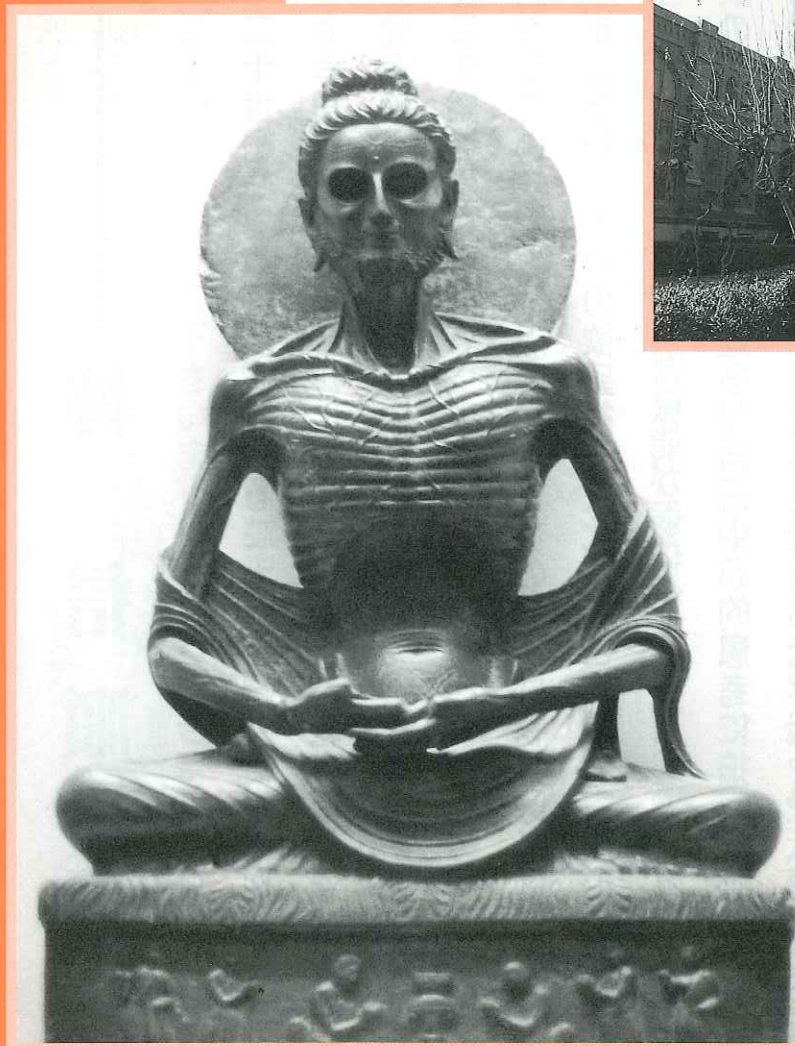
そほう

組 報

かながわ

No.14 2001.3.15

身近なお寺の情報誌



ラホール博物館

釈迦苦行像

3～4世紀頃
84×53cm

ガンダーラ美術の特徴の一つである、リアリズム表現を極度に押し進めた傑作。シツダールタ太子はさとりを求める多くの遍歴の後、最後に苦行に入る。6年間に及ぶ激しい断食苦行をなしたと伝典は伝えている。製作者は、釈尊のその肉体的苦しみに耐え抜いた精神力を表そうとしている。落ち窪んだ眼、骸骨のような痩せこけた身体のリアルな表現は、観る者に感動を与えずにはおかない。

パキスタン・ラホール博物館所蔵（撮影：故 永野彌然）

浄土真宗本願寺派

そほう かながわ 第14号

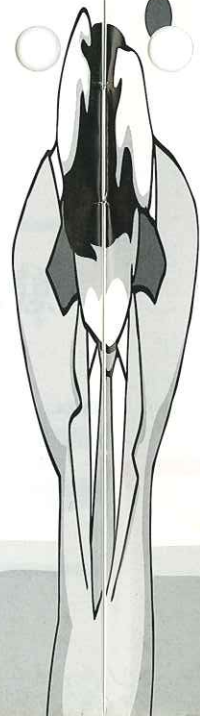
二十世紀も終わり、新たな二十一世紀の百年を迎えようとしている今日、全国で青少年による暴力事件、殺人事件等の凶悪犯罪の多発という現実が新聞紙上をにぎわせています。政府は少年法の改正で年齢を引き上げて、青少年による犯罪に歯止めをかけようと努力をしています。経済成長や文化の発達は物質的には生活を豊かにしましたが、人々の欲望も肥大化させました。家族形態も核家族化へと変遷し、家庭の教育機能が弱体化しています。さらにマスメディアの発達に伴う情報過多が自己中心的思考に拍車を掛け、人間関係や地域の連帯意識が希薄化してきました。我々大人達はこの問題にいったいどのように対処していけばよいか苦慮している現在です。

「世の中安穏なれ、仏法弘ひろるまればかし」という宗祖親鸞聖人のお言葉があります。信仰をもつということは、生活を明るく楽しくする道であります。生活がとどこおりなく営まれている時は、だれで

も明るくほがらかであります。信仰を持つことの必要さは痛切には感ぜられませんか。病氣にならないと薬の必要を感じないように。しかし生活に一寸いっしゆびしたつまづきがあると、心に余裕がなくなり、おおげさにいえば世をうらみ人をうらむということになります。この時に世間や人をうらまずということが出来れば、生活はいつも明るく楽しくなります。それは、常に自分の身を省みること、相手の立場を考える余裕を持つことであります。「我身はわるきいたずる者なり」という教えはこの反省を教えたものであります。仏教では人間の世を苦しみの世界だと教えています。そして、その苦しみは、我々自身の「迷い」が作り上げてしまっているのだと説いています。煩惱が煩惱を生み、迷いを積み重ねて止まることがないのが我々の現実であります。

このような中で親鸞聖人は阿弥陀さまが我々人間を強く生かして下さるのだと教えて下さいました。強くいきましよう。阿弥陀さまはいつも我々のうちに働いていて下さるのです。明日も明後日も我々の生きている限り見守っていて下さいます。

法話——「強く生きる」——



宗派の動き

■浄土真宗本願寺派仏教青年全国大会

浄土真宗本願寺派の仏教青年の全国大会が八月四日(土)・五日(日)に本願寺築地別院と千代田女学園において開催されます。

基本要項

大会名称 「全国真宗青年の集い」

2001 TOKYO

主催 浄土真宗本願寺派仏教青年連盟

開催期日 二〇〇一年八月四日(土)・五日(日)

会場 本願寺築地別院、千代田女学園

テーマ 「垣根をこえて」

趣旨 ある宇宙飛行士が言いました「地球に国境線はなかった」と。

しかし、現実には違います。いつのまにか、私たちは垣根を作っています。国家、人種、宗教、性別などの。

自分の中で垣根を作って新しい世界、新しい価値観との出遇いを遠ざけているのではないのでしょうか？

阿弥陀さまは「垣根をこえた世界」を願ひ示して下さいます。

本当の私が見えてくるところに、垣根をこえた道がある。そんな思いを共にしながらこの大会を迎えたいと思います。

講師 和泉元弥氏(狂言師、俳優)
発題 丸山浩路氏(ステージパフォーマンス)
参加対象 集いに賛同された方

①浄土真宗本願寺派門信徒子弟・寺院子弟

②仏教青年会々員

③青少年国際研修団参加者

④親鸞聖人を慕う中学生以上の男女

その他(宗門関係学校生徒・学生、保育連盟保育士・教諭、少年連盟OB・指導者、スカウト連盟指導者等)

参加費 三、〇〇〇円

(宿泊費は含まれておりません)

募集人員 六五〇名

基本日程

【二日目】

受付……………午後一時～

開会式……………午後二時～

オリエンテーション・班別自己紹介……………午後二時三〇分～

問題提起(丸山浩路氏)……………午後三時～

グループディスカッション(夕食)……………午後四時三〇分～

記念講演(和泉元弥氏)……………午後六時～

フリータイム・各宿舍へ移動……………午後七時～

【二日目】

おあじ……………午前九時三〇分～

法話……………午前九時四十五分～

パイプオルガンと雅楽の演奏会……………午前十一時十五分～

閉会式……………午前十一時～

解散……………午前十一時三〇分～

▼申し込み 各寺院へ参加費をそえて六月十五日までにお申し込み下さい。
※プログラムの予定を変更する場合もございませので所属寺院へお問い合わせ下さい。

神奈川組の動き

■神奈川組連続研修会

連研(連続研修会)は、門信徒の皆さまに、浄土真宗のみ教えを体系的に学んでいただくことを目的に開催されています。

隔月に開催し、二年間計十二回の研修を実施します。第六期が二〇〇〇年十月より始まり、一〇〇名を超す参加者によって開催されています。

■神奈川組仏教婦人会「めぐみ会」

「めぐみ会」は、組内各寺院の婦人会の連盟です。毎年、総会・研修会を開催し、各婦人会の交流と親睦をはかっています。ダーナ(布施)活動として、募金活動をおこない、宗派を通して社会福祉に役立てています。

■第三十回南ブロック門徒子弟研修会

毎年、神奈川・静岡・山梨の三県から小学校三年・中学校三年の子供たち

が集まり開催されています。今年も七月下旬に開校の予定です。詳細は所属寺までお問い合わせください。

■神奈川組仏教壮年会

組内の各寺院から集まった会員が活発に活動中。年四回の研修会は、藤田恭爾師(宝光寺副住職)をご講師に『お聖教に学ぶ』をテーマに開催されています。

仏壮参加ご希望の方は所属寺まで。

【二〇〇〇年度慶弔】

▼慶賀

十一月 常念寺本堂修復慶讃法要

▼往生

四月 宣正寺前住職 早島 鏡正様 七十七歳

五月 宝光寺坊守 藤田 稔子様 八十四歳

八月 長延寺前住職 雲居 隆昌様 八十三歳

そうだ! 本願寺乗車票で、京都にいこう!!



★京都にホテルはいろいろありますが、西本願寺にも、一昨年の蓮如上人五百回遠忌を記念して完成したばかりの「聞法会館」という、快適な宿泊施設があります。どなたにもお泊まり頂けます。
料金はお一人様、一泊二食(朝夕)9,000円(税別)～。一泊朝食7,000円(税別)～。
お申し込み・お問い合わせ/京都市下京区堀川通花屋町上ル柿本町600-1
本願寺『聞法会館』TEL.075-342-1122。

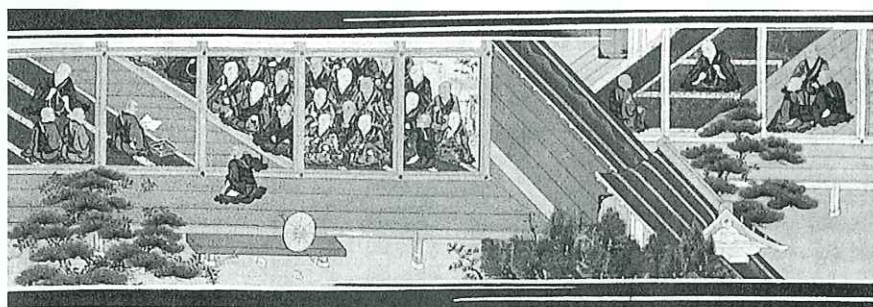


思い立ったら、京都にいきましょう。もちろん、ご本山参拝にです。

★それからもうひとつ、京都に行くならお得な乗車券があります。『本願寺乗車票』という割引切符です。
料金は、たとえば東京→京都の指定席で、通常片道13,220円のところ、11,530円となります。
ただし有効期間は発売日から一ヶ月。指定席の場合はその列車に限り有効で、自由席は記入された乗車開始日より七日間有効です。変更についてはいくつかの制約がありますので、各旅行社にお問い合わせ下さい。
この乗車券の取り扱いは、JTB日本交通公社・近畿日本ツーリスト・日本旅行の各支店となっています。

親鸞聖人のご生涯 その2

5

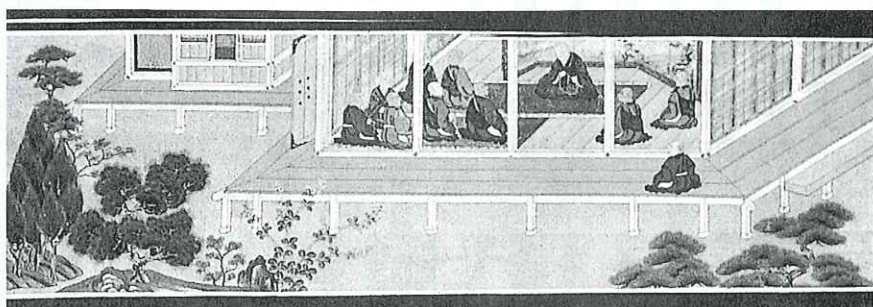


【行と信の両座に分かつ】

1205(元久2)年、法然上人が、他力往生の教えをひろめ、いよいよ盛んになったが、その教えをいただき、本当に報土に往生しうの信心を成就している人は少なかったのです。親鸞聖人は上人に提案し、おのおのの考えを確かめたいと申し出ました。阿弥陀仏の本願を信ずる一念に浄土往生が決定する「信不退」と思う人と、念仏の行を励みその功德により往生が決定すると信ずる「行不退」と思う人で、座に分け、随意に座ってもらうことにしました。

親鸞聖人と数名が「信不退」の側に座り、多くの門弟は「行不退」の側へ座りました。法然上人は「私も信不退の座の方へならびましょう」と「信不退」の側に座られました。

6



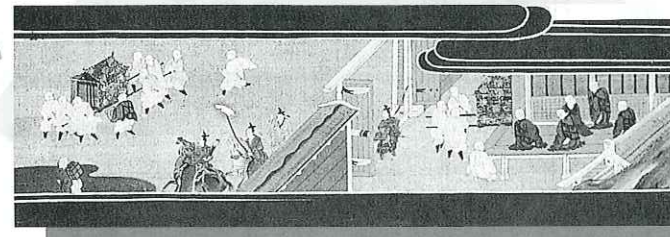
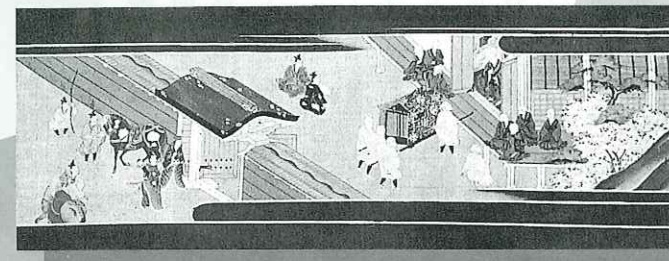
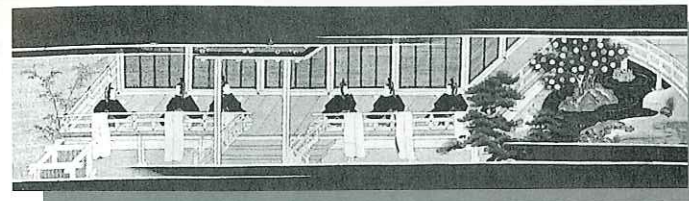
【信心をめぐる諍論】

翌年、親鸞聖人が「私の信心も、法然上人のご信心も同じで一つです」と言われたことから、他のお弟子と信心についての論争が起こった。他のお弟子たちは、「御師上人のご信心と同じということは思いあがり、もってのほかだ」と聖人をとがめた。法然上人にこのことをお聞きしたところ、「この源空(法然)の信心も阿弥陀如来よりいただいた信心です。善信房(親鸞)の信心も如来よりいただいた信心です。ですから全く同じです」といわれ、「もし別の信心であれば、私(法然)が参るであろう浄土へは、参ることはありません」とお答えになりました。

えでん
親鸞聖人のご生涯を、ご絵伝を見ながらたどっていきます。
(前号からの続き)

特集

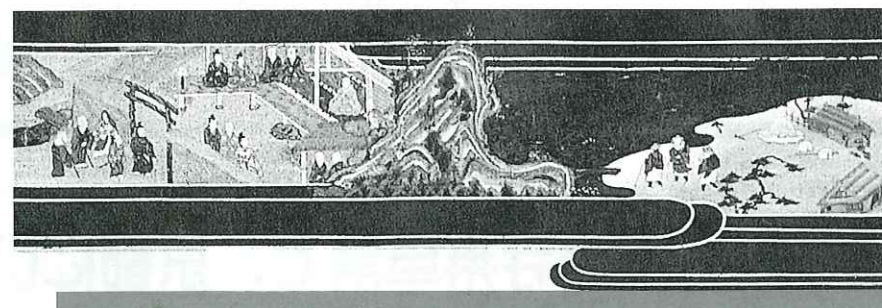
7



【法然上人、親鸞聖人、流罪となる】

奈良興福寺の学僧たちの奏状により、1207(承元)年、法然上人とその門弟十二人は、罪の内容を検討されることもなく、死罪に処せられる者、僧籍を剥奪され遠国へ流罪に処せられる者が決められました。法然上人は、土佐国に、親鸞聖人は、越後国にそれぞれ流罪に処せられました。

8



【関東へ移る】

越後流罪から4年後の1221(建暦元)年の11月17日、流罪が赦免になりました。しかし、親鸞聖人は、京都へは戻らず、関東へ移られ、笠間の稲田で草庵を結ばれ、布教活動に励まれました。

教育はどうして進むのか



昨今、教育の荒廃について多くの論議がなされています。いじめや不登校、校内暴力、学級崩壊から凶悪な少年犯罪について、社会の関心が高まっています。

今年の正月の高松や高知などで起きた「荒れる成人式」のニュースは、まさにその象徴的な出来事でありました。まるで親の庇護の元でわがままが許される幼児が、そのまま身体だけ成長してしまったかのような若者の自己主張のあり方は、教育そのものに問題があることを如実に示していると言っても過言ではないでしょう。

成人式のあり方についての論議もなされていましたが、問題は成人式だけに止まることなく教育全体の問題として捉えていくべきであろうと思われます。

ただし私たちが今確認しておかなければならないことは、教育の問題を学校教育にだけに限定してはならないということです。むしろ、学校教育に全てを委託したかのような顔をして学校教育を批判し続けてきたツケが、子どもたちの心の荒廃と言つ形で家庭や社会に回ってきたのだ考えるべきでありましょう。

しかし、その関心の高まりを、政治的な思惑で利用をする動きも始まりました。自らの「神の国」発言について、宗教的見地や教育的見地で適切な処理をすることが全くできなかった方々が押し進めているのですから心配ではありません。

なかでも、少年法については、その社会の関心を政治家が利用し、現場の声を無視した形で厳罰化の法改正を決定してしまいました。また、首相の私的諮問機関である「教育改革国民会議」では、教育基本法という教育の理念にまで政

明燈法

治的な手を加えていくという方向が示されました。現場で努力していることは現場に任せ、より効果が上げられるように政治的バックアップをするのが政治家の役割だと思つのですが、何かがずれているような気がしてなりません。

森首相は、今年を教育改革の年にするのだそうです。しかし、制度を更めても膏藥的な効果しか期待できません。社会が教育に自信

を取り戻すために、私たちは教育についてしっかりと考えていかなければならないと思います。

仏教は、人が人として生きていく上でも、また人がより向上するために心が大切であることを説いています。そこでは、如何に我が心と対峙できたかが問題になります。そこで生まれてきた知恵は、私たちの生を支えてきていたと思います。宗教的情操教育は、以前

は親から子へ自然に伝わりました。しかし、現在では意識しなければ伝わりません。

「教育改革国民会議」の最終報告では宗教教育についても意見が述べられています。しかし、「神の国」発言の次元では困ります。宗教界からも宗教教育はもちろんのこと教育全般に関して積極的に発言をしていかなければならない時が来ていると思います。

5 門徒の知恵

落語では仏教と関係のある用語が多く聞かれます。例えば、**嘶家さん**が上演する場を「高座」といいますが、これはもともと僧侶がお説教をするときに上がる、ひときわ高い台座のことです。これが話芸にも引き継がれたものです。また、小道具のひとつ「手ぬぐい」を「曼陀羅」と呼んだりもします。



授かった子供に長寿を願うあまり、和尚と相談するうちに「寿限無寿限無五劫のすりきれ」という長い意味の言葉を羅列したために長い名前をつけることになってしまうという、あの古典落語「寿限無」も、『仏説無量寿経』に説かれる記述に影響を受けているといわれます。こんな具合に落語と仏教は深い関係にあります。落語という「オチのある話」が話芸と成立したルーツは、安楽庵策伝（一五五四〜一六四二）が著した『醒睡笑』という滑稽文学にあるとされます。策伝は、安土桃山から江戸時代にかけて活躍した浄土宗西山派の僧で、京都三条の誓願寺住職をつとめました。茶人としても有名で、この人物が落語の祖といわれています。

縁エンギ起

すべてのものは、自然現象に関するものであっても、あるいは人間社会に関するものであっても、必ずその原因があり、様々な条件がはたらいて結果が生じているのです。このことを「縁起」といい、あるいは「因縁生起」ともいいます。因縁の因とは、原因のことであり、縁とは条件のことです。そして現実には、因と縁と果とが複雑に関係しあい影響しあって、持ちつ持たれつの状態を作っています。

たとえば、種子から芽が出るという現象を見ても、種子が原因(因)で芽は結果(果)です。種子がないのに芽が出るということはない。しかし種子があれば必ず芽が出るかというと、そうではない。種子から芽が出るためには、大地も必要であるし、湿度・地質・水分・日光・人間の細心の手入れなど、さまざまな条件(縁)がはたらいているのです。

日常、よく「エンギが良い・悪い」「エンギをかつぐ」ということばを聞きます。そこで使われる「エンギ」は「吉凶の前兆」という意味なのでしょう。ところが、現実はそのそんなに単純なものではない。むしろ、他の多くのものの力、恵み、お陰を受けて、私たちは生かされているという、仏教の基本的な教えなのです。



薬あればとて、
毒をこのむべからず

「親鸞聖人御消息」

これは阿弥陀さまが悪人をこそ救うと聞いて、進んで悪しき行為をするものがあることを歎かれていたお言葉です。

私達は阿弥陀さまの教え(薬)に出会う前は煩惱(毒)の赴くままであったが、阿弥陀さまの教えにより悪人の姿が他人ごとではなくなり、教えを聞けば聞くほど自然にだんだんと毒を好まず薬を好むようになってくると、親鸞聖人が教えてくださいます。このお言葉をご縁に私自身のありようを振り返らせていただきます。



『21世紀をどう生きるか —混沌の歴史の始まり』

読んでほしい本の一冊

(PHP親書135) 野間宣雄 著

滋賀県の浄土真宗の住職でもある著者が、これまで親鸞聖人の教えとは無縁に暮らしてきた人たちが読者であることを念頭に、21世紀という混沌とした時代をどう生きるのかを問うているのが本書である。

目次の中からいくつか紹介すると、「第4章 なぜ中世に学ぶのか」では、「人生のモデルを踏み外した親鸞」「現代に通ずる親鸞の時代」「第5章 21世紀によみがえる親鸞の教え」では「みともなく生き、安心して苦しむ」「『正の人生』に転換させる他力の存在」等々。

著者は、本書で、浄土真宗の寺院に生まれ育ちながら、若い頃はそれに反発し、近代ヨーロッパに憧れ、西洋史を学んできたけれど、結局は近代ヨーロッパの中を大きく迂回して親鸞聖人の教えに戻ってきたと語る。そんな著者が、混沌とした21世紀を生きてゆくために、親鸞聖人の人生観が一つの大きな拠りどころとなりうるのではと読者に問いかけているのが本書である。

入仏式のすすめ

お仏壇は、私たちの生きるよりどころである阿弥陀さまをご本尊としてご安置します。ですから、「亡き人」を偲ぶ場ではありますが、それ以上に「生きている人」のために、お仏壇はあるのです。

家族から独立して新たに世帯をもった時は、小さくてもよいですから、是非お仏壇をお迎えいたしましょう。また、お仏壇のない家に娘さんを嫁に出す時なども、先方とよく相談して、嫁入り道具と共にお仏壇を持って行かせたいものです。

お仏壇を新調したり修復したときに勤める法要を「入仏式」といいます。入仏式は、その家にとっては一番大切でめでたいことです。紅白のおもちを供えたり、朱のローソクを用意してお祝いにふさわしいおかざりをします。

人間にとって感謝と反省ほど大切なものはない、とよく言われることです。その感謝と反省の心を育てる場がお仏壇です。お仏壇の阿弥陀さまを中心に、毎日、お念仏の生活を送りましょう。

仏さまに見守られた信心の生活から、
幸せな家庭が築かれてゆくのです。



『人はなぜ騙されるのか —非科学を科学する』

読んでほしい本の一品

(朝日文庫) 安斎郁郎 著

現代社会が科学優位であると思いきや、実際には何の根拠もないものに振り回されている現実をみる。占い・超能力・心霊の世界などに身を寄せているのである。我が人生を主体的に生きることを選択せずに、自らの人生の主人公になることさえ放棄してしまっていると著者は語る。

「親鸞の嘆き (p.232~233)」と題して、本書で次のように述べている。

「浄土真宗の開祖である親鸞聖人は、今から700年以上も前に、占いや迷信の類に惑わされる世界に人々の姿を慨嘆して、つぎのように述べた。『悲しいかなや道俗の 良日吉日選ばしめ 天神地祇を崇めつつ ト占祭祀勤めとす』(中略) 和尚が死んで700年以上が経っても、迷信だけはちゃんと生き残っている。どうします?」

「人はなぜ騙されるのか」をお考えいただくために本書をお薦めします。この私が騙されていたことに気づくかもしれません。

お寺を訪ねて(13)

小田急多摩線栗平駅から南に5分ほど歩いたところに常念寺があります。多摩丘陵にある為、あたりは起伏の多い地形でまだ沢山の緑に包まれています。昭和49年に多摩線が開通する以前は、周りはどこを見ても緑一色だったそうです。しかし現在では、近くに桐光学園やマイコンシティなどができ、また住宅も建ち並びすっかり様変わりをしてしまいました。

常念寺は1200年代、現在の東京都町田市金井町に開山したと伝えられています。現在もその名残としてその地に阿弥陀堂が残っています。『栗木村地誌』によりますと、永禄元年(1558)9月に僧福受が現在の地(栗木)に開基・創建したとあります。現住職古市道仁師は福受師を初代として第19代目にあたります。

永禄元年に寺地移転し本堂が建てられましたが、江戸時代中期に火災のため焼失し明和年間(1764~1771)に現在の本堂が再建されました。しかし、230年という年月に本堂も老朽化し、ご住職も「新しい本堂を」と考えられたそうですが、常念寺のご門徒さんから「是非古い本堂を残して頂きたい」との声が多く上がり、ご住職も考えを変え修復を行うことに決められたそうです。平成12年11月には修復工事も終わり、大工さんから「あと100年は大丈夫ですよ」と言われたそうですが、ご住職は「人の命と同じ、諸行無常の世の中ですから明日にはどうなるかわかりません」と笑っていました。

また平成2年には栗平会館が先代住職の時に建立され、新しい鉄筋の建物(会館)と古い建物(本堂)が並んで独特の調和を保っています。

現在は、毎月の常例法座や元旦会、盂蘭盆会、春秋彼岸会、報恩講など様々な法要を開催し、多くのご門徒さんが参拝され、お聴聞されているそうです。



—多摩丘陵の緑に包まれたお寺—

じょう ねん じ
常念寺

(川崎市麻生区栗木203)

ポストエイオス研究会

インターネットのホームページを開設。
法話や仏教情報などのページです。
<http://www.posteios.com>

ビハーラ電話相談

—老いの悩み、病の苦しみに—
相談日▶毎週月・金/午後2時~5時
浄土真宗東京ビハーラ(築地本願寺内)
TEL.03(5565)3418



テレホン法話

電話で仏さまのみ教えを!

- 築地本願寺こころの電話
TEL.03(3541)0282
TEL.045(662)5629
- 長念寺テレホン法話
TEL.044(911)8282

お手々のしわとしわをあわせて…しあわせ

日本の美・日本の心をお届けします。



昭和59年 京都西本願寺阿弥陀堂
昭和大修事業
昭和62年 京都清水寺開山堂御厨子
三重塔堂内修復事業
昭和63年 福岡証券取引所
業界初の株式上場
平成6年 大阪証券取引所第2部
株式上場

製造部
(株)はせがわ美術工芸
(国宝美術品、寺院神社)
(株)長谷川仏壇製作所(純金箔仏壇)
江川木工(株)(唐木仏壇)
(株)長谷川唐木仏壇製作所(唐木仏壇)

業界初の上場企業
関東地区86店舗・全国で135店舗

～お仏壇、お仏具等～
特別割引
大ご奉仕中!!
※セール商品は除きます。

墓石・霊園も
好評お取り扱いしております。

しあわせ少女たばちゃん

横浜・川崎地区の店舗ご案内

金沢文庫店	横浜市金沢区谷津町352-7 オオサワヒルズ1F	☎0120-876-768
上大岡店	横浜市港南区日野5-1-25	☎0120-767-628
戸塚店	横浜市戸塚区柏尾町440-1	☎0120-767-627
今宿店	横浜市旭区今宿東町1621	☎0120-767-658
新杉田店	横浜市磯子区杉田1-2-3	☎0120-484-883
長津田店	横浜市緑区いぶき野3-1	☎0120-744-194
鶴見駒岡店	横浜市鶴見区駒岡町4-23-4	☎0120-176-761
日吉店	横浜市港北区日吉3-4-8 リバーサイド日吉	☎0120-639-010
鷺沼店	川崎市宮前区東有馬1-1-19	☎0120-876-768
川崎店	川崎市川崎区東田町2-1	☎0120-767-577
町田森野店	町田市旭町1-8-20	☎0120-768-201

営業時間／午前10時～午後7時 日曜・祝日も営業いたしております。



浄土真宗本願寺派 神奈川組

円光寺	〒210-0814 川崎市川崎区台町4-21	☎044-266-2677
宝門寺	〒210-0838 川崎市川崎区境町5-10	☎044-222-3941
光徳寺	〒210-0848 川崎市川崎区京町1-14-3	☎044-333-3997
正楽寺	〒212-0016 川崎市幸区南幸町2-49	☎044-522-1961
高元寺	〒211-0051 川崎市中原区宮内4-3-12	☎044-777-6544
長念寺	〒214-0014 川崎市多摩区登戸1416	☎044-911-2549
常念寺	〒215-0033 川崎市麻生区栗木203	☎044-988-0205
浄照寺	〒216-0004 川崎市宮前区鷺沼2-5-7	☎044-855-2780
善龍寺	〒221-0811 横浜市神奈川区斎藤分町29-51	☎045-491-9431
善教寺	〒223-0057 横浜市港北区新羽町2396	☎045-541-7684
教覚寺	〒223-0057 横浜市港北区新羽町2395	☎045-531-5050
光輪寺	〒223-0064 横浜市港北区下田町3-2-9	☎045-561-8671
東善寺	〒224-0001 横浜市都筑区中川7-18-29	☎045-911-3509
長徳寺	〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西3-9-1	☎045-911-7351
寿福寺	〒224-0033 横浜市都筑区茅ヶ崎東1-7-1	☎045-942-3721

最乗寺	〒224-0034 横浜市都筑区勝田町1277	☎045-941-3541
慈恩寺	〒224-0055 横浜市都筑区加賀原2-18-1	☎045-934-8648
西勝寺	〒225-0003 横浜市青葉区新石川1-10-8	☎045-911-0156
長延寺	〒226-0015 横浜市緑区三保町2440	☎045-932-3348
最願寺	〒230-0001 横浜市鶴見区矢向4-19-18	☎045-571-4694
宝光寺	〒231-0062 横浜市中区桜木町3-5	☎045-201-3509
善然寺	〒232-0061 横浜市南区大岡2-26-17	☎045-741-2351
宣正寺	〒232-0063 横浜市南区中里3-20-18	☎045-731-2679
清来寺	〒241-0034 横浜市旭区今宿南町1895	☎045-951-0012

本願寺築地別院都市開教布教所

横浜布教所	〒240-0065 横浜市保土ヶ谷区和田2-12-19	☎045-341-7455
三ツ境布教所	〒241-0816 横浜市旭区笹野台3-9-9	☎045-364-2266
磯子布教所	〒231-0835 横浜市中区根岸加曾台25-47	☎045-623-4480

地域内の東京教区寺院

妙延寺	〒215-0002 川崎市麻生区多摩美1-27-1	☎044-966-5304
覺永寺	〒225-0004 横浜市青葉区元石川町6391	☎045-901-0570

「神奈川組」とは…

私たちの教団（浄土真宗本願寺派）は、全国に一万余りの寺院を擁し教団独自の地区割をしています。その一番小さな単位を「組」といいます。神奈川組は、川崎市と横浜市中部と北部の寺院によって構成されています。

浄土真宗本願寺派東京教区神奈川組

教区会議員／曾我 求真	組長／林 信順	相談員／早島 大英
金子 貞夫（門徒）	副組長／斎藤 幸紹	相談員補佐／宮本 義宣
	副組長／小林 泰善	

一茶の俳句から



『浄土和讃』の中に「讃阿弥陀仏偈和讃」がございますが、その最初の和讃に、

弥陀成仏のこのかたは

いまに十劫をへたまへり

法身の光輪きはもなく

世の盲冥をてらすなり

とあります。これは『正信偈』に続いて一般の人々がその当時から、節をつけて拝読していたものです。その和讃の初句「弥陀成仏のこのかたは」をそのまま採用して、

涼しさや弥陀成仏の此かたは

(中略) 浄土教の経典の中に、極楽浄土の宝石からでている木々を吹く風は、「清風」すなわち清涼の風だという。「清風宝樹ふくときは」という和讃があります。何ともしえない涼しさなんです。それを一茶はいい当てているのです。(中略)ですから、一茶が「弥陀成仏の此かたは」というのも、十劫の昔、阿弥陀如来が仏の悟りを開いたときから吹いてきた風だ。だから柏原の粗末な家に住みながら、吹く風は浄土からの涼しい風だと捉えている。私たちはどこにいても暑い暑いといわずに、これは西方浄土からの風だと思えば、一番いいんじゃないでしょうか。

早島鏡正著『念仏一茶』
四季社刊より

編集後記

二十一世紀はどんな世紀になっていくのでしょうか。近代の科学・医学の進歩は、私達の価値観を大きく変えるほどのものです。特に生命にかかわる技術の進歩は、新たな様々な問題を生み出していくことでしょう。科学者は言いまします。「科学に善悪はない。それを使う人間の方に善悪があるのでしよう」と。どこまでやっていいのかを今人間自らが判断するようになると問われていくことです。

変わりゆく生命観の中で、仏教・浄土真宗の教えをどう聞いていくのか。とても大切な時代になるように思います。

(M・Y)



浄土真宗本願寺派 (西本願寺)

横浜市都筑区勝田町1277

最乗寺

〒224-0034 電話045-941-3541

組報かながわ No.14

■発行日 2001年3月15日
(毎年1回3月発行)

■編集発行 浄土真宗本願寺派
東京教区神奈川組
基幹運動推進委員会

〒210-0848 川崎市川崎区京町1-14-3 光徳寺内